

「日々の理科」(第 4026 号) 2025, -8, 15

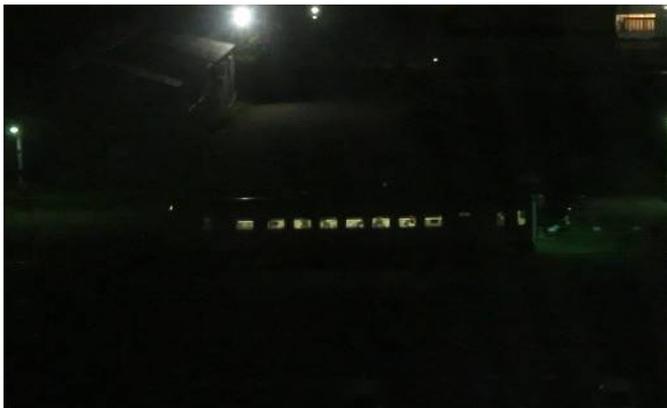
## 「北海道一周鉄道旅行 (29)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



泊まったホテルはほとんど釧路駅前だったので、部屋から線路や駅がよく見えました。向かいの白いホテルの前は、長距離バスのターミナルになっています。



部屋の窓から、根室から来た最終列車が見えました。私が乗って来た列車よりも空いていました。この列車もシカと衝突してなければいいなと思いました。



翌朝も晴れでした。部屋は北東向きだったので、朝日がよく見えました。日本の東端に近いので、この日の釧路の日の出時刻は午前 3 時 48 分でした。



私は二番目の札幌行特急の指定券をとってあったのですが、まともや早起きをして、一番早い特急に乗ることにしました。ちょっと途中下車したい駅があったのです。昨日、朝食用に買った 3 個のパンは、列車の中で食べることにしました。



釧網本線や、根室本線の釧路～根室間には、現在普通列車しか走っていませんが、釧路から帯広方面には特急「おおぞら号」が走っています。かつては、寝台車も連結した夜行急行「まりも号」も走っていました。



「おおぞら号」は「北斗号」「オホーツク号」などと並んで、国鉄時代から一度も運行を止めたことのない、北海道の名門特急の一つです。ヘッドマークはタ

ンチョウをスマートにデザインしています。



おおぞら号も全車指定席なので、本来私のフリー切符では、指定をとっていないと乗れません。しかし特例で、空席に乗って良いことになっています。早朝の始発だったので、気の毒なほどガラガラでした。



列車は太平洋沿いに進みますが、このあたりではほぼ毎朝霧が出ます。この日も濃霧でした。この霧が釧路平野を越えて、摩周湖まで流れ込むのです。



線路際にはずっと防護柵が続いています。これはヒトの侵入ではなく、シカの侵入を防ぐためのものです。シカにとっては線路を越えての移動に支障がありますが、列車との衝突を防止するには仕方ありません。



この特急は札幌行きでしたが、私は途中の「浦幌(うらほろ)」という小さな駅で列車を捨てました。



降りたのは私一人、乗った人はいませんでした。またもや私だけの為にわざわざ停車してくれたことになります。乗り降りする乗客が一人もなく、対向列車との離合(すれちがい)もない場合は、バスみたいに通過にしても良いような気がしました。



#### 「名寄本線・四号線(しごうせん) 仮乗降場」

以前の北海道にはそういう駅がたくさんありました。正確には「駅」ではなく「仮乗降場」という施設でした。乗降客がないと通過する場合もあり、降りる場合は車掌さんに「降ります!」と伝えておくのです。